

農村地区での生活環境の変化に伴う家族の育児 参加のあり方に関する研究

佐藤 信和*, 石川 貴美*, 栗山 孝子*
清水 昱子*, 若松 若子*, 黒木 洋子*

要約：当支所管内は、高齢化が進んでいるなかで、若い母親は、近郊の誘致企業に就労し家計をささえている。一方、家族の形態は三世代で、乳幼児健診には主に母親が参加しているが、日中保育している祖父母への遠慮、また逆に祖父母が嫁に遠慮する等、育児に対する意見の食い違いがあり、徴症状「ちょっと気になる子」は幼児教室へ勧奨しても参加しない。幼児教室参加者をもみても障害のはっきりしない子の保護者への働きかけがむずかしい。以上のことから、育児に係わる人々の「気づき」のチャンスの場づくりとして、I町に「赤ちゃん教室」を開催し、また同町の乳幼児健診の結果の見直しをあわせて行い、家族の育児参加の問題点（現状）について検討した。

見出し語：赤ちゃん教室 家族の育児参加

研究方法：

- ・同時期に出生した子供をもつ母親を対象に、「赤ちゃん教室」を開催した。
- ・あわせて、乳幼児健診等の相談内容、結果から現状を検討した。

結果：1) 「赤ちゃん教室」について

＜目的＞同時期に出産した母親同志の交流の場をもち、仲間づくりをするとともに、育児情報を提供し、「気づき」のチャンスの場をつくる。

＜対象・方法及び実績＞

対 象	生後3か月児をもつ母親
開 催	毎月1回
実施内容 (流れ)	・受付 ・身体計測及び個別相談 ・グループ学習 自己紹介 意見交換 (育児をしてみたの 感想・経験談等)
実 績	平成2年4月～12月まで9回開催 対象者の81%が参加 (対象者 36名 参加者 29名)

*秋田県秋田保健所五城目支所

＜グループ学習から得た現状及び問題点＞

- ①多くの母親が育児について相談できる友達がほしいと思っているが、この教室ではじめて知り合った人が殆どであった。これは、町外から嫁に来て、日中は誘致企業で働く生活が一因と考えられる。
- ②複合家族の中での育児は、祖父母の言葉に影響されやすく、母親の考えは育児になかなか反映されない。

2) 乳幼児健診の結果から

乳幼児期の相談内容として、友達と遊べない(遊ぶ機会がない) 1日中テレビ、ビデオに夢中で過ごしている。おやつ中心で食生活に乱れのある子供など、家族全体でとりくまなければいけない問題が多い。そこで、今回は歯科健診を中心に考えてみた。1才6か月児・2才児・3才児健診の歯科健診結果は別表のとおりである。う歯の罹患・保有本数は年令をおうごとに増えている。このことを生活面から見直しし、検討した内容は次のとおりである。

- ①多くの母親は子供が1才を過ぎると働き始め日中は祖父母が養育している。孫に事故のないようにと、自宅内で遊ばせ、おやつを好きなだけ与え、近所の人達とお茶のみの付き合いにも同伴している。

- ②出生数の減少から、同じ部落内に同年齢の子供がいないため、遊ぶ友達がいない。
- ③集団生活をさせたいが、保育料の負担や日中保育者がいるのに入園させるのに抵抗があり自宅ですごしているこどももある。
- ④母親は、孫を見てもらっているため口出しは難しい。

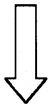
以上のことから、今後の健診等での指導は家族全体の意見の一致をみるような働きかけが必要であることが明確になった。

考察：家族の育児参加のあり方の検討から母親の交流と児の観察のための場づくり及び主な日中の保育者である祖父母のかかえる問題の解決のための場づくりの両方の必要性を痛感した。

次年度は、「赤ちゃん教室」参加者へのアンケートを実施し、参加者の満足度を把握したうえで、母親のグループ活動の手がかりをつくとともに、祖父母に対しては「孫親学級」を開催し、地域の問題として育児参加のあり方を検討したい。

歯科健康診査結果 (I 町)

	対象人員	受診人員	受診率 (%)	う歯の型別分類			う歯一人	平均本数	不正咬合のある者		
				総数	A型	B型				C型	
一歳六か月児	59	75	67	89.3	6	5	1	8.9	0.2	0	
	60	61	55	90.2	3	2	1	5.5	0.1	1	
	61	61	56	91.8	6	5	1	10.7	0.3	5	
	62	52	49	94.2	4	4		8.3	0.2	3	
	63	54	53	98.1	1	1		1.9	0.02	3	
二歳児	H1	49	45	91.8	5	4	1	1.1	0.4	5	
	61	57	45	78.9	25	20	4	55.6	1.9	2	
	62	62	44	71.0	20	15	4	45.5	1.5	4	
	63	57	34	59.6	13	10	3	38.2	1.2	1	
三歳児	H1	56	34	60.7	13	11	2	38.2	1.1	2	
	59	75	66	88.0	60	15	35	10	90.9	7.1	0
	60	55	53	96.4	45	16	26	3	84.9	5.8	4
	61	76	61	80.3	56	17	32	7	91.8	8.2	6
	62	63	57	90.5	53	17	23	13	93.0	6.4	3
	63	61	56	91.8	53	20	24	9	94.6	7.7	7
	H1	51	50	98.0	48	20	25	3	96.0	7.3	6



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:当支所管内は、高齢化が進んでいるなかで、若い母親は、近郊の誘致企業に就労し家計をささえている。一方、家族の形態は三世代で、乳幼児健診には主に母親が参加しているが、日中保育している祖父母への遠慮、また逆に祖父母が嫁に遠慮する等、育児に対する意見の食い違いがあり、微症状「ちょっと気になる子」は幼児教室へ勧奨しても参加しない。幼児教室参加者をもみても障害のはっきりしない子の保護者への働きかけがむずかしい。以上のことから、育児に係わる人々の「気づき」のチャンスの場づくりとして、I町に「赤ちゃん教室」を開催し、また同町の乳幼児健診の結果の見直しをあわせて行い、家族の育児参加の問題点(現状)について検討した。